

今朝も皆さまとともに主を礼拝できます幸いに感謝します。6月に入りました。先週の夏のような暑さから、台風もありまた寒さが戻ってきています。寒暖差の激しい時ですが皆さまのご健康と日々の歩みが続けて守られ支えられますようにお祈りしています。

聖霊と火で

ルカの福音書を通してともにみことばに聞いています。ここ数回は3章の前半、バプテスマのヨハネについて記す箇所をともに読んできました。先主日は私よりも力のある方が来られるという、バプテスマのヨハネの証言から教えられました。私たち自身の正しさや強さによってではなく、イエスさまの力と恵みによって生きる幸い。力強いイエスさまを証ししその恵みを分かち合っていく幸いをともに覚えました。今日もこのヨハネの証言からともに教えられていきたいと思ひます。ヨハネが指し示した救い主イエスさま。力のあるお方とはどのようなお方であるのか。今日の16節をもう一度お読みします。

そこでヨハネは皆に向かって言った。「私は水でああなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。私はその方の履き物のひもを解く資格也没有。その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。」

ヨハネは自分よりも力のある方が、聖霊と火でバプテスマを授けられるお方であると語っています。自分が水でバプテスマを授けているのとは対照的に、やがて来られる救い主は聖霊と火でバプテスマを授けるお方であると、ヨハネは言ひます。聖霊と火でバプテスマを授けられるイエスさま。聖霊とは先日ペンテコステで降臨をお祝いした、あの聖霊です。私たちのうちに働いてくださる神さまの霊を指します。そして火とは、私たちの日常でも使う火、炎のことです。聖霊と火でバプテスマを授けるとは一体どういうことでしょうか？聖書の中で火は、しばしば神さまの怒りやさばきを表すものとして用ひられます。先日お読みしました7-9節でヨハネはこのように語っていました。

ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしの子孫たち。だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。」

それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』という考えを起こしてはいけません。言っておきますが、神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子らを起こすことができるのです。」

斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木はすべて切り倒されて、火に投げ込まれます。」

良い実を結ばない木は切り倒され、火に投げ込まれる。神さまの恐ろしいさばきヨハネは語っていました。イエスさまは神さまのさばきをこの地にもたらすお方として来られました。やがてこのイエスさまの前に全ての人がさばかれることになる。それが聖書の語る真理です。

そしてこのイエスさまは、私たち信じる者の内にある罪や汚れをきよめ取り除いてくださるお方でもあられます。聖霊と火のバプテスマ。それは、私たちを罪からきよめ御前に相応しく私たちを作り替えてくださる救い主イエスさまのお働きを教えている、ということです。続いて17節。

また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめ、麦を集めて倉に納められます。そして、穀を消えない火で焼き尽くされます。」

ここでは麦を脱穀する作業に、イエスさまのみわざがたとえられています。収穫した麦の穂から粒を出して、いらぬ穀は焼き捨ててしまう。そのような作業がイエスさまが私たちになさることだと言われます。ここにもイエスさまのなさるさばきが語られていると同時に、私たちのうちにある弱さや罪が取り除かれ、神さまの前に余分なところが削ぎ落とされていく。そのようなイエスさまのみわざが語られています。イエスさまが私たちを聖霊によって作り変え、私たちの望ましくない部分を削ぎ落としていってくださる。そのように私たちイエスさまにある者が成長しきよめられることを「聖化」と言ひます。それがイエスさまの聖霊と火によるバプテスマ、イエスさまが私たち信じる者になしてくださることだ、ということです。

先主日もご紹介しましたマラキ書3章1節以降に、こんな御言葉があります。

「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。――万軍の主は言われる。」

だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立ってられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。」

この方は、銀を精錬する者、きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粋にする。彼らは主にとって、義によるささげ物を献げる者となる。ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々のように、ずっと以前の年々のように 主を喜ばせる。

これはやがて来るメシヤ、救い主を予告するみことばです。救い主は金や銀を精錬するように人々を純粋にしきよめてくださる。そしてそれによって人々は、神さまの前に相応しいささげ物をささげる者となり、神さまを喜ばせる者となると、ここでは予告されていました。そのように、イエスさまは私たちを聖霊と火によって純化し、きよめてくださるお方である。私たちのうちにある罪や弱さを聖霊の炎によって燃やし焼き尽くし、神さまの前に整え神さまに喜ばれるものとしてくださる。そのようなお方としてイエスさまをヨハネは人々に紹介したのでした。

私たちは、イエスさまを通して罪の赦しをいただき、信仰により罪からの救いに与ります。しかし信じた瞬間、イエスさまを受け入れた瞬間に、罪が消えてなくなるのではありません。信仰を持って洗礼を受けたら、そのあとは罪を犯さなくなるのではない。完璧な人間になるのでも当然ありません。それは私たちが日々の歩みの中で実感していることだと思います。依然として弱い私たち、罪深い私というのは間違いなくここにいるわけです。イエスさまはそのような私たちを聖霊と火によってきよめてくださる。十字架により罪赦された私たちが、罪を離れ神さまに喜ばれる歩みをしていくために。愛に満ちた、正しい人とされていくために、イエスさまは私たちを整え成長させてくださる。それが救い主イエスさまが私たちに与えてくださる、救いの恵みであるということです。

ローマ人への手紙6章3-6節にはこんなみことばがあります。今朝の招きの言葉で読まれたみことばです。

それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。

私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。

私たちが洗礼を受けること。イエスさまを信じてバプテスマを受けることは、イエスさまと私たちが一つとされ、新しいいのちに生きるためだと聖書は語ります。このバプテスマを受けた私たちは、イエスさまの十字架の死と同じように古い自分に死んでいく。罪の奴隷でなくなり、神さまに従って生きるために、私たちは新しいいのちをいただいているのだということです。

聖書が語る救いは、単に罪が赦されたとか、死んだら地獄に行かなくて済むとか、そういうものではありません。イエスさまによって新しいいのちに生かされる。古い罪の自分が死に、キリストにある新しいいのちに生きること。それが聖書の語る救い、イエスさまが私たちに与えてくださっている救いなのです。古い罪に生きていた自分がイエスさまの死と同じようになり、イエスさまの復活と同じようになり、新しく生きることができる。依然として罪を抱えた弱い者ではありますが、聖霊の働きによって少しずつ少しずつ成長されきよめられていく。そのような「聖化」のプロセスに私たちは招き入れられている。この恵みを私たちは覚えていたいと思います。

苦難や試練を通して

私自身、牧師として教会にお仕えする中で、皆さん一人ひとりの成長を感じることがあります。神さまがその人を成長させてくださっている。聖書のみことばを通して、また日々の出来事や、教会の交わりを通して、聖霊が豊かに働き実を实らせてくださっていることを感じます。なかなか自分ではそういったことに気づけない、成長のない自分であるように思うかもしれませんが、神さまは確実にお一人おひとりに働いてくださっています。イエスさまは聖霊を通して、私たちをきよめ整え、成長させてくださっている。そのことを覚えるものです。

一方で、聖霊と火によるバプテスマ。イエスさまが私たちをきよめ成長させてくださるプロセスは、喜びや感謝だけではありません。時に痛みや困難を伴うものでもあります。聖霊だけではなく、聖霊と火によるバプテスマとされていること。そこにはさまざまな試練や時には痛みを通して、私たちを成長させてくださるイエスさまのみわざが現されています。

先ほど読んだマラキ書にも、救い主が金や銀を精錬するように、火によって私たちを純粋にしてくださいと予告されていました。実際金や銀の純度を上げるには、炎を使って余分なものを燃やすという工程があるそうです。イエスさまは聖霊の働きとともに、火をもって私たちを成長させてくださる。私たち信仰者の成長、聖化の過程には時に火

の中を通るような、痛みや苦しみを経ることがある。そうやって神さまの前に整えられ、成長することが私たちにはあるのだということです。

ローマ人への手紙5章にはこうあります。

それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す。そしてこの苦難を通して生まれた希望は、今月の賛美で歌ったように失望に終わらないと聖書は約束しています。私たちは苦難を通して希望を知ることがある。苦しみを通して、注がれている神さまの愛の深さに気付かされることがあるのです。

私自身、小さな信仰の歩みですが、あの苦しみ・あの痛みがあったからこそ今があるのだなと思い当たるような出来事がいくつかあります。失敗や間違い、時には理不尽に傷つけられること、何かを失うことを通して自分の信仰が問われ練られ、成長させられることがある。試練や苦しみ自体は決して喜ばしいものではありませんが、そういった経験を通してでなければ得ることのできない成長があること。苦しみや悲しみ痛みを通して与えられる恵みや成長があるのだということを私たちは覚えていたいと思うのです。

その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。

イエスさまは、私たち一人ひとりとともにおられ、聖霊と火によって、私たちを成長させきよめてくださいます。この後ともに受ける聖餐は、私たちのため十字架で死によみがえってくださったイエスさまのみわざを示し、今も生きて私たちを養い導いてくださるイエスさまを指し示すものです。イエスさまの愛と恵みを受け、聖霊の助けにより神さまに喜ばれる者、罪を離れ神さまのみこころに生きる者と変えられていく。そのような私たちとされたいと思います。時に苦しみや痛みを通るとも、そこにも、いやそここそ神さまの豊かな恵みが注がれていることを信じ期待をして、希望を持ってこの地の歩みを進んでいく私たちとされていきましょう。

お祈りをいたします。「主イエス・キリストの父なる神さま。みことばをありがとうございます。イエスさまが私たちに与えてくださる聖霊と火によるバプテスマ。私たちを整えきよめ成長させるために、今日もイエスさまが私たちの歩みに伴ってくださることを覚え感謝いたします。私たちがますますあなたに喜ばれる歩みをする事ができますように、私たちの内にある罪や汚れを取り除き、あなたの御心になかった歩みをする者へと作り替えてください。時に苦難の中を通るとも、あなたの恵みと真実にいつも信頼し生きる私たちとどうかならせてください。今まさに苦しみや痛み、試練の中にある方々を覚えます。どうかあなたからの励ましと支えが豊かにありますように。みことばに感謝し、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」